

1. 事業の概要

3 R (リデュース、リユース、リサイクル) イニシアティブの推進について、我が国での G 8 の会合においても議論される予定であり、会議の合意を受けて 3 R の取組をさらに推進していく。

- . アジア各国の 3 R 推進のための政策対話・計画/ビジョン策定支援協力
アジア各国において 3 R を推進するための計画/ビジョンの策定を支援する。また、東アジアにおける 3 R 政策対話を実施する。
- . (新) アジアにおける廃棄物・3 R 作業部会の運営
UNEP と WHO が事務局となる「南東・東アジア環境と保健に関する地域フォーラム」の下に設置される廃棄物作業部会について、議長国として運営を行う。この作業部会が東アジアにおける 3 R 政策対話の場となる。
- . 3 R に関する技術移転の推進
UNEP やアジア開発銀行などによりアジア工科大学に構築された 3 R ナレッジハブ (情報拠点) について、日本の 3 R ・廃棄物処理の制度・技術・経験をベースにしたコンテンツの提供を行う。
- . アジア資源循環研究推進事業
アジアにおける 3 R ・廃棄物管理の研究者・専門家間での連携を目的とした研究ネットワークを形成する。
また、UNEP が設立する「天然資源の持続可能な利用に関する国際パネル」について、我が国の 3 R 政策等に関する知見をとりまとめ、国際的な議論の活性化に貢献する。
- . (新) ゴミゼロ国際化行動計画の見直しと実施
G 8 環境大臣会合において、3 R イニシアティブについても議論される予定であり、会合に先立って「ゴミゼロ国際化行動計画」を見直すとともに実施に移す。
- . (新) アジア 3 R 事業化推進基礎調査 (別紙の 1 参照)
アジアの途上国において 3 R ・廃棄物処理関連事業の形成を促進するため、基礎ニーズ調査、我が国企業の技術の活用可能性評価等の基礎調査を実施する。
- . (新) 東アジア循環型社会ビジョン調査費 (別紙の 2 参照)
廃棄物を含めた循環資源の流れが、国内では完結せず国際的になっている現状を踏まえ、東アジアでの循環型社会構築に向けた基本的な考え方や目標を定めた ビジョンの策定に向けた調査を行う。

2. 事業計画

	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
	事前調査	政策対話	計画策定		
		事前調査	政策対話	計画策定	
			政策対話の実施		
				廃棄物・3R作業部会の運営	
	データベース作成		データベースの管理		
		研究ネットワークの形成			
				持続可能な資源利用に関する国際パネル	
				G8環境大臣会合 G8サミット	フォローアップ
				基礎調査	
				調査	

3. 施策の効果

G8サミット等での3R推進についての議論でリーダーシップを発揮
 政策担当者レベル、研究者レベルでのアジア各国間の連携の強化
 3Rに関する国際的な研究の推進による科学的基盤の強化
 我が国の先進的な3R技術・システムの国際的な展開

4. 備考

- ・アジア各国の3R推進のための政策対話・計画/ビジョン策定支援・協力 41,992千円
- ・アジアにおける廃棄物・3R作業部会の運営 13,322千円
- ・3Rに関する技術移転の推進 15,458千円
- ・アジア資源循環研究推進事業 22,382千円
- ・ゴミゼロ国際化行動計画の見直しと実施 7,023千円
- ・アジア3R事業化推進基礎調査 10,000千円
- ・東アジア循環型社会ビジョン調査費 12,609千円

1. (新) アジア 3 R 事業化推進基礎調査

開発途上国、特にアジアの途上国においては、経済の急速な発展に廃棄物の適正処理が追いつかず、環境汚染が懸念される状況にある。また、経済のグローバル化に伴い、廃棄物を含めた循環資源が国境を越えて移動しており、途上国の一部において不適切なリサイクルが行われている例が報告されている。こうした課題に対処するために、開発途上国においても 3 R や廃棄物の適正処理の推進が図られる必要がある。

このため、開発途上国において 3 R ・廃棄物処理関連事業の形成が促進されるよう事業化、その前段階で必要な基礎的な調査を実施する。

具体的には、アジア等の地域・準地域・各国における 3 R ・廃棄物処理関連事業の事業化に共通に役立つ、例えば以下のような事項についての調査を実施する。

- ・ 3 R ・廃棄物処理関連技術評価、我が国企業の技術の活用可能性評価
- ・ 3 R ・廃棄物処理事業投資効果の評価指標の開発
- ・ リサイクル工場集積地の成立の要件の検討、基礎ニーズ調査、環境保全効果評価
- ・ アジア地域内国際リサイクル成立の要件検討、基礎ニーズ調査、環境保全効果評価

(備考) 10,000千円

2. (新) 東アジア循環型社会ビジョン調査費

我が国は、2005年の 3 R イニシアティブ閣僚会合において「ゴミゼロ国際化行動計画」を発表し、その中で2012年までに「東アジア循環型社会ビジョン」を策定することを明らかにした。「21世紀環境立国戦略」においても、東アジア全体での適正かつ円滑な資源循環を確保する観点から、同ビジョンの策定について盛り込まれた。

廃棄物を含めた循環資源の流れが、国内では完結せず国際的になっている今日、東アジアでの循環型社会構築に向けた基本的な考え方や目標を定めたビジョンを東アジア各国で共有することが求められている。

- 東アジア循環型社会ビジョンの策定に向け、
- ・ 国際的な循環資源に関する東アジア各国の意向の調査
 - ・ 東アジアでの循環型社会の構築に向けた基本的な考え方の整理や目標の検討
 - ・ 中国との廃棄物回収・再生利用等に関する協力内容の検討
 - ・ 廃棄物・中古品の定義付けなど、具体的な取組の検討
 - ・ 東アジアにおける資源循環の状況調査等を行う。

(参考) ビジョン策定までのスケジュール

UNEPとWHOが事務局を務める「南東・東アジア環境と保健に関する地域フォーラム」の下に設置した廃棄物作業部会をはじめとする、東アジアでのパイやマルチの政策対話を通じて、東アジアにおける 3 R の推進、循環型社会の構築について議論を深める。その上で本調査の成果も踏まえて、各国・関係国際機関と協力して、ビジョンの検討を行い、2012年までに策定する。

(備考) 12,609千円

国際循環型社会構築に向けた今後の取組

